

交通安全を児童に声掛け

7月1日（水）、鶴田町交通安全協議会（須郷耕二会長）と鶴田町交通安全母の会（奈良順子会長）が、鶴田小学校校門前で交通安全街頭啓発活動を行いました。

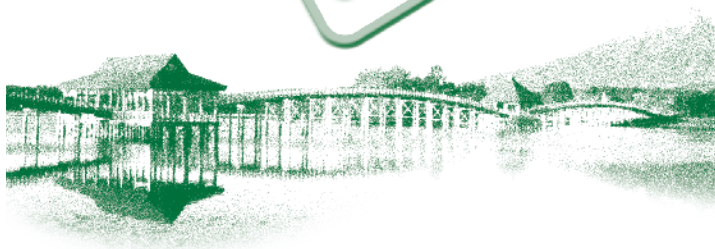
当日は参加者が交通安全を啓発するのぼりを持ったり、事故防止運動をアピールするスカーフを巻いたりして校門に並び、児童たちに声掛けを行い、声を掛けられた児童は元気よく「おはようございます」と返事をしていました。

奈良会長は「子どもたちが元気よくあいさつしてくれるので、とても励みになります」と話していました。

両団体は10月末まで、毎週水曜日の朝に活動を行うそうです。



△登校する児童たちを見守る参加者たち



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

町りんご産業への尽力を評価

県りんご協会がりんご産業の発展に功績のあった県内の生産者を表彰する「第21回澁川傳次郎賞」の贈呈式が7月16日（木）に行われ、瀬良沢の成田文一さんに顕彰状が贈られました。

成田さんは町のわい化栽培の先駆者として40年前からわい化栽培に取り組み、剪定の会を設立し町内外の援農活動や若手生産者への剪定技術の指導にも尽力したことが評価されました。

町からの初めての受賞者となった成田さんは「共にりんご作りを頑張ってきた仲間たちとみんなでもらった賞だと思う。今後もりんご作りを楽しみながら恩返ししていきたい」と話していました。



△受賞した成田文一さんと妻の美代子さん

税金の大切さ、クイズで学ぶ

鶴田小学校で7月16日（木）、税金の仕組みについて学ぶ「租税教室」が行われ、同校6年生約100人が税金について理解を深めました。

教室は五所川原税務署の依頼を受け、町が毎年開催しています。町職員が講師を務め、税金の種類や何に税金が使われているのかをクイズ形式で出題したり、税金がない世界を描いたアニメを上映して暮らしとの関わりを分かりやすく解説していました。また、1億円分の紙幣レプリカが入ったケースを持ち”税金の重み”を体験していました。

授業を受けた児童は「税金があることで、みんなの困りごとを解消していることがわかった」と話していました。



△楽しそうにクイズに答える児童たち



△プレミアム付き商品券の販売のようす

地域の消費を喚起

7月21日（火）、鶴田町商工会主催で新型コロナウイルスの影響により落ち込んだ消費を喚起するため、町内で使えるプレミアム付き商品券「地域応援商品券」が販売されました。

今回は1セット1万3千円分を価格1万円で1000セット限定で販売。購入上限は1人当たり2セットまでとなっており、町外の人でも購入可能でした。

当日は役場駐車場で販売が行われ、夏日の中、販売開始の4時間前から並ぶ人がいました。正午に販売が開始し、限定1000セットは開始15分で完売となりました。

商品券の有効期限は今年の12月20日（日）までとなっております。

ねぶたに願いを込めて

7月21日（火）、つるたまつりなどで運行するねぶたが新たに完成しました。

新たなねぶたは青森県町村会の「町村の魅力発信事業助成金」を活用し制作。青森市のねぶた師竹浪比呂央さんが制作を行いました。作品名は「朝比奈三郎鬼退治」。勇猛な武者が悪さをする鬼を退治する一幕を表現しており、鬼を新型コロナウイルス感染症に見立て、新型コロナの早期収束の願いがねぶたには込められています。

今年度はつるたまつりが中止のため新たなねぶたの運行はありませんが、8月17日（月）から21日（金）までの役場開庁時間内に、役場車庫内での一般公開が行われます。



△ねぶたを制作した竹浪比呂央さんと相川町長